

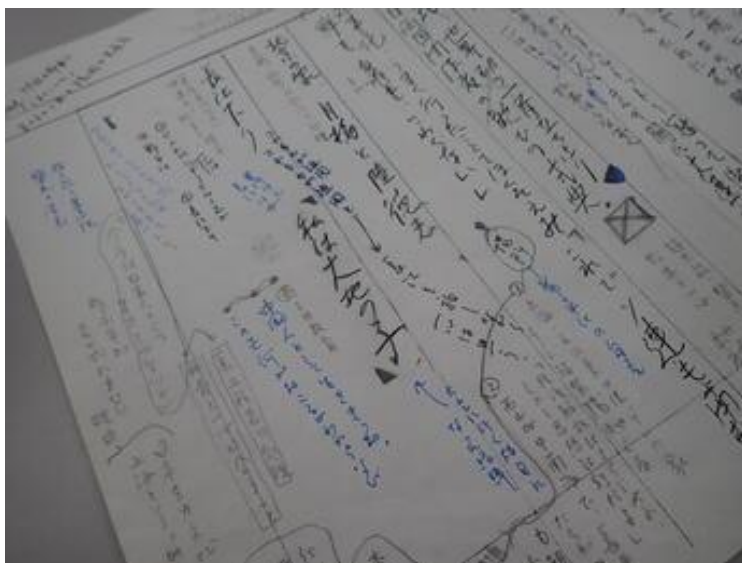
令和 7 年 10 月 11 日

【戦後 80 年特別企画】
「戦争三部作を中心とした、
作家・山崎豊子の平和への思い」
パネル展開催のご案内

大阪・船場に生まれた作家・山崎豊子〔1924～2013 年〕は、『不毛地帯』、『二つの祖国』、そして『大地の子』といった、いわゆる「戦争三部作」を中心に戦争をテーマとした著作を多く残しました。

この節目の年に「戦争三部作を中心とした、作家・山崎豊子の平和への思い」と題したパネル展を開催します。東西の歴史ある公共図書館において、山崎豊子の紡いだ“ことば”に触れながら、戦争と平和について考える展示となっています。

1908（明治 41）年に東京市立日比谷図書館として開館した日比谷図書文化館は、戦時下に約 40 万冊の蔵書を奥多摩や志木へ疎開させ、「疎開した 40 万冊の本」として知られています。空襲により多くの蔵書を失いながらも、貴重書を守り抜いたその姿勢は、山崎豊子が描いた戦争の記憶と平和への願いと深く響き合うものです。こうした背景を踏まえ、日比谷図書文化館でもパネル展と講演会を開催する運びとなりました。



『大地の子』進行表

●山崎豊子パネル展「戦争三部作を中心とした、作家・山崎豊子の平和への思い」 概要

- ・期間：令和7年11月6日（木）～12月24日（水）
- ・場所：千代田区立日比谷図書文化館 4階 エレベーターホール
- ・時間：午前10時～午後10時（月～金）
午前10時～午後7時（土）
午前10時～午後5時（日・祝日）
- ・休館日：11月15日（土）～11月17日（月）、12月15日（月）
- ・料金：無料
- ・お問い合わせ：03-3502-3340（代表）
- ・主催：千代田区立日比谷図書文化館
- ・共催：大阪府立中之島図書館 指定管理者 ShoPro・長谷工・TRC 共同事業体
- ・協力：一般財団法人山崎豊子文化財団
一般社団法人山崎豊子著作権管理法人
株式会社新潮社
株式会社文藝春秋
株式会社毎日新聞社 大阪本社
株式会社140B

●特別講演会 『大地の子』編集者が見た、山崎豊子の「魅力と迫力」

- ・講師：平尾隆弘氏（元 株式会社文藝春秋代表取締役社長）
- ・会場：千代田区立日比谷図書文化館 地下1階日比谷コンベンションホール（大ホール）
- ・日時：令和7年11月29日（土）午後2時～3時30分（午後1時30分開場）
- ・受講料：1,500円
- ・定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- ・申し込み：日比谷カレッジ WEB
https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/information/20251129-post_852/
- ・お問い合わせ：03-3502-3340（代表）

見どころ

① 平尾書簡（現物展示）

『大地の子』の編集者でもある平尾隆弘氏が山崎豊子先生に宛てた書簡を展示します。長年浜寺の山崎家で大切に保管されてきた書簡は『大地の子』の一章一章がどのように形作られていったのかを示す重要な資料です。

② 『大地の子』進行表（複写）

『大地の子』のラストシーンには、「私はこの大地の子です」という主人公の有名なセリフがあります。この構想がかなり初期の段階からあったことを示す貴重な資料の複写を展示します。

③ 疎開が守った知の遺産——内田嘉吉文庫の稀覯書

東京都立駿河台図書館（千代田図書館の前身）に所蔵されていた内田嘉吉文庫中の稀覯書は多西村（現・あきる野市）に疎開されました。

千代田区の貴重なとして、現在は日比谷図書文化館の4階「特別研究室」に所蔵されており、今日まで修復を重ねながら開架で公開してきました。今回の「山崎豊子パネル展」にあわせ、ヨーロッパの伝統的製本技法である「ルリユール」の日本における第一人者・岡本幸治氏の修復による「疎開によって守られた稀覯書」を展示します。

<本展示に関する取材のお問合せ>

千代田区立日比谷図書文化館 広報担当：南辻

電話：03-3502-3340

※取材の申込については下記ページをご覧ください。

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/journalists>